

## 米国 製造業部門モメンタムの緩やかな低下傾向に変化なし (06年8月ISM製造業景気指数)

発表日：2006年9月1日（金）

～在庫・受注比率が低下しており I S M製造業景気指数は9月も低下～

 第一生命経済研究所 経済調査部  
 桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

 (03-5221-5001 : [seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

### I S M (the Institute for Supply Management) の推移

	総合	生産	雇用	在庫	入荷遅延	新規受注	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
05/08	53.5	55.9	52.9	46.1	50.6	55.8	50.5	62.5	54.5	53.4
05/09	58.0	61.7	53.1	49.0	58.6	60.7	55.0	78.0	57.3	53.4
05/10	58.1	60.8	54.9	48.4	60.8	59.9	55.5	84.0	55.2	58.2
05/11	57.3	60.2	56.0	49.3	56.9	58.5	53.0	74.0	57.9	54.1
05/12	55.6	57.8	53.6	47.3	52.9	59.1	49.5	63.0	54.3	52.8
06/01	54.8	56.6	51.3	46.5	55.3	58.0	53.5	65.0	58.5	57.0
06/02	56.7	57.4	55.0	49.6	52.2	61.9	54.5	62.5	57.0	57.5
06/03	55.2	57.5	52.5	48.7	53.1	58.4	59.5	66.5	57.3	57.0
06/04	57.3	60.4	55.8	51.3	57.7	57.6	57.0	71.5	53.4	59.0
06/05	54.4	57.2	52.9	48.0	57.6	53.7	53.0	77.0	55.7	56.5
06/06	53.8	55.1	48.7	46.9	55.0	57.9	54.0	76.5	55.4	56.5
06/07	54.7	57.6	50.7	50.5	55.4	56.1	50.5	78.5	51.9	57.5
06/08	54.5	56.6	54.0	50.2	55.0	54.2	51.5	73.0	55.7	54.0

#### 54.5 と前月比 0.2 ポイント低下

06年8月の I S M製造業景気指数は、54.5と前月から0.2ポイント低下し直前に下方修正された市場予想と一致した。指数を構成する5項目の前月からの変化では、雇用が上昇した一方、新規受注、生産、在庫、入荷遅延が低下した。さらに、拡大した業種数は20業種中9業種（前月12業種）に減少しており、製造業部門モメンタムは緩やかに低下している。ただし、I S M製造業景気指数は、国内需要の堅調と世界的な需要の拡大を背景に高い水準を維持しており、製造業部門の堅調持続を示している。家計部門の減速とそれを企業部門がある程度下支えする構図が続いている。

先行きについては、新規受注が在庫を上回る低下幅となったことから、I S M製造業景気指数に1、2ヵ月先行する新規受注・在庫比率が低下しており、I S M製造業景気指数は9月も低下する可能性が高い。その後も、需要が鈍化する中、製造業部門のモメンタムは2007年前半まで緩やかなペースで鈍化傾向を辿ると予想される。

#### 製造業受注・生産統計の鈍化傾向持続を示唆

個別にみると、生産指数は前月から1.0ポイント低下し（40ヵ月連続で50を上回った）、拡大した業種数は9業種（前月9業種）と変わらずとなった。また、2月をピークに水準が切り下がっていることから、製造業生産（FRBベース）は10月にかけて3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で拡大ペースが鈍化すると予想される。

新規受注指数は40ヵ月連続で拡大縮小の分岐点である50を上回ったものの、前月から1.9ポイント低下した。加えて、拡大した業種数が7業種（前月9業種）と減少しており、製造業受注（商務省ベース）の拡大ペースは10月にかけて3ヵ月前対比年率で鈍化傾向を

辿ると見込まれる。

### 在庫は需要に見合う形で拡大にとどまっている

在庫面では、在庫指数が50.2と前月から0.3ポイント低下にとどまり、在庫を増やした業種数は20業種中7業種（前月4業種）と増加した。

しかし、新規受注と同時に在庫が増加する前向きな在庫拡大が5業種（前月3業種）に増加していること、新規受注が減少する中で在庫が増加する、悪い在庫増となった業種は2業種（前月1業種）にとどまっていることから、製造業は需要に見合う形で在庫の積み増しを行っていると判断される。

### 貿易赤字は高水準持続

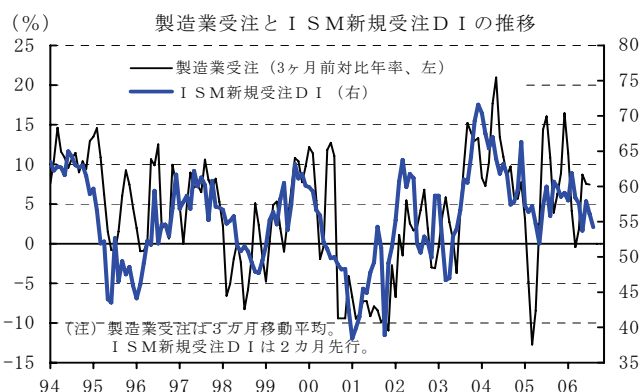
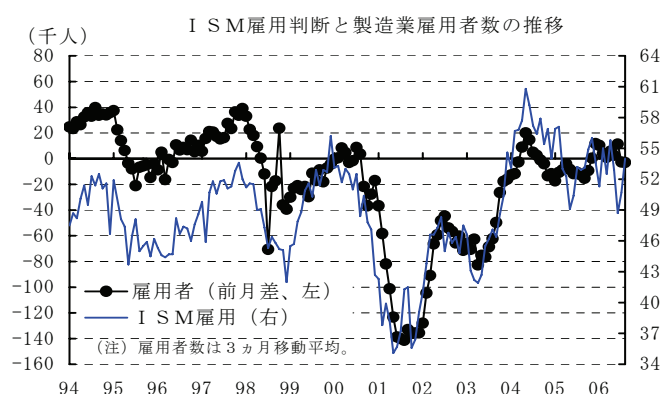
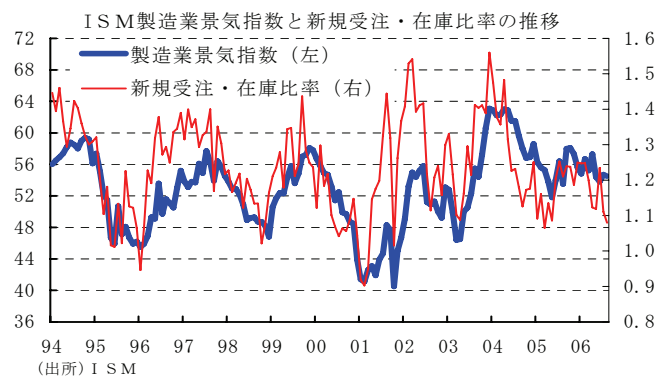
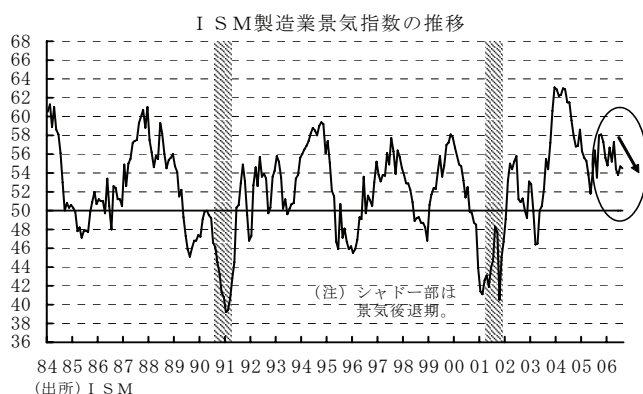
外需に関しては、輸出受注は55.7と前月の51.9から上昇したものの、通関統計に3ヵ月先行する3ヵ月移動平均で3月をピークに低下していることから、輸出（通関ベース）は6月以降伸びが鈍化しよう。一方、輸入指数は54.0と前月の57.5から小幅低下したが、高い水準を維持した。このため、通関ベースでの輸入の増加ペース加速を示唆していることから、貿易赤字額は高水準で推移する可能性が高い。

### 製造業雇用は減少に転じる可能性

雇用関連では、雇用指数が54.0（前月50.7）と上昇し、増加した業種が8業種と前月の7業種から増加したことから、製造業雇用者数（3ヵ月移動平均）は9月に増加する可能性がある。

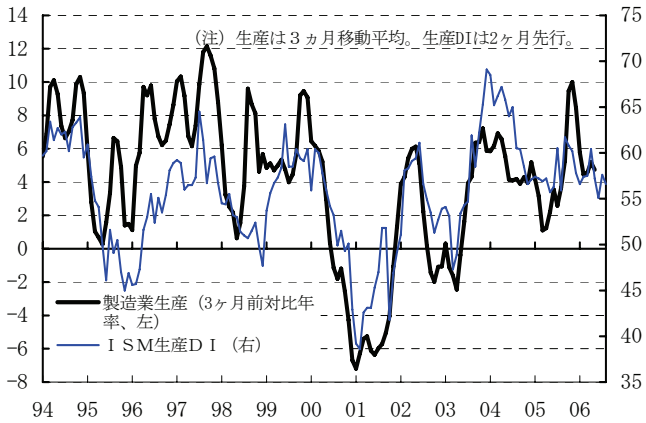
### 目先川中での物価上昇圧力が緩和する公算

物価面では、商品価格指数（仕入れ価格）は73.0と商品価格やエネルギー価格の下落によって、前月から低下した。このため、商品価格指数に遅れて動く傾向があるPPI（中間財コア）は8、9月に3ヵ月前対比年率で伸び率が鈍化する可能性が高い。

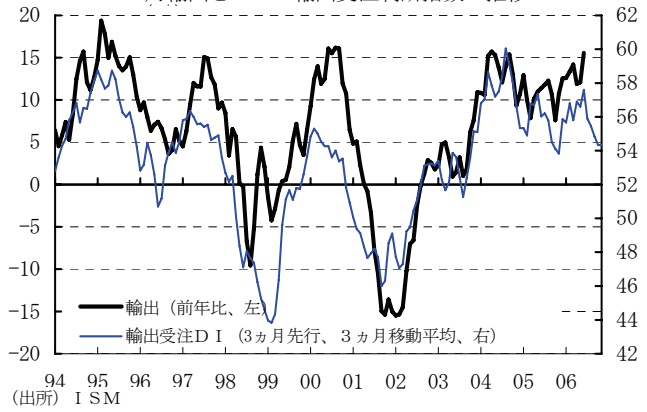


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であると限りません。

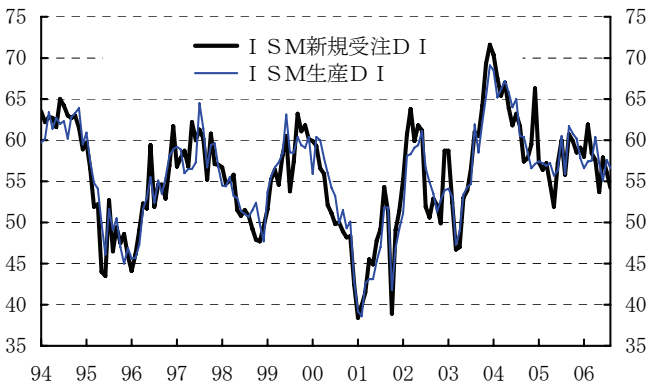
(%) I S M生産判断と製造業生産の推移



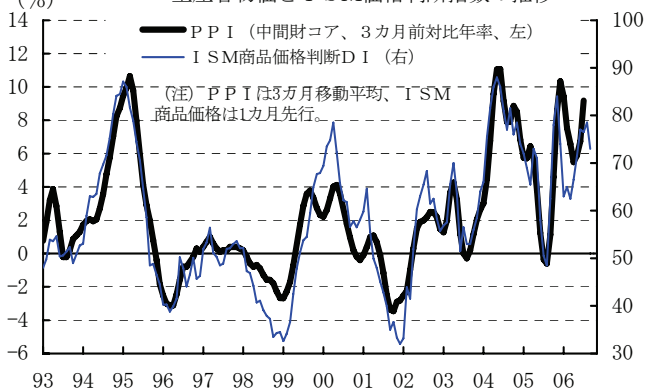
財輸出とI S M輸出受注判断指数の推移



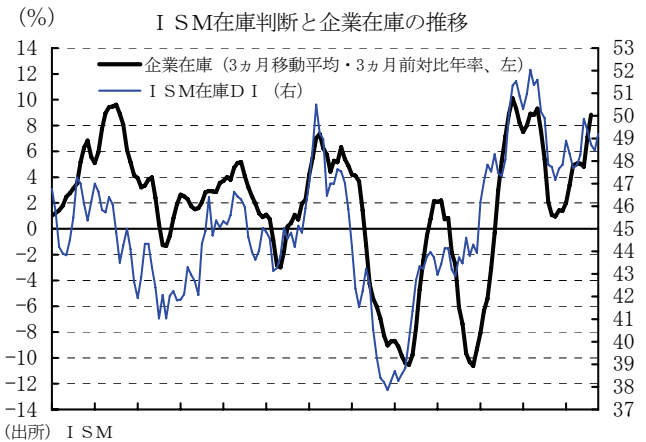
(%) I S M新規受注指数と生産指数の推移



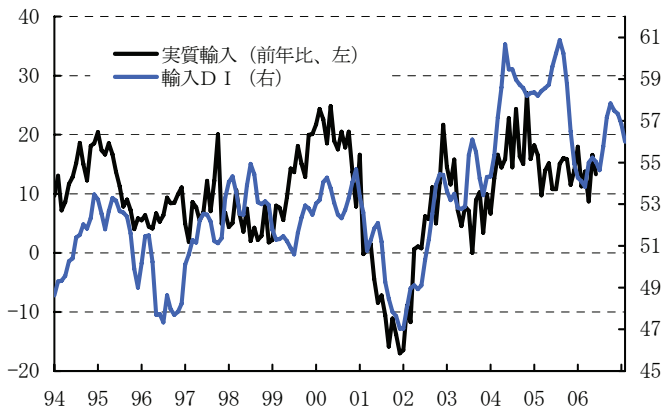
生産者物価とI S M価格判断指数の推移



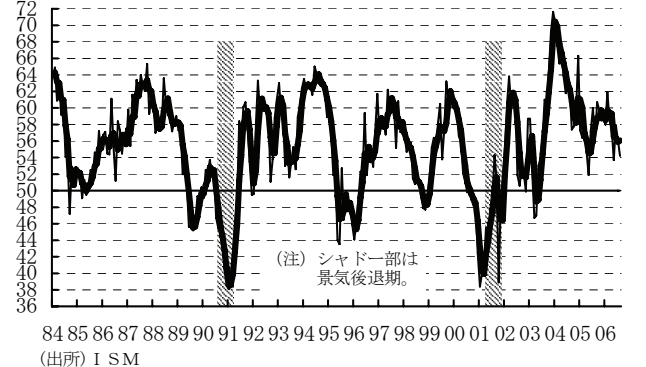
I S M在庫判断と企業在庫の推移



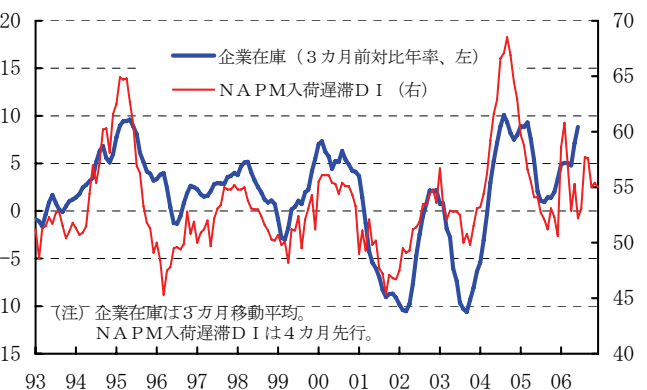
実質財輸入とN A P M輸入判断指数の推移



I S M製造業新規受注指数の推移



N A P M遅配判断指数と企業在庫の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であると限りません。